

広告特集

企画・制作 朝日エージェンシー西部

6月はリウマチ月間

紙上対談

適切な治療で「寛解」をめざす 『関節リウマチ』

体の免疫機能が、自分の体を異物のように誤認し暴走する自己免疫疾患「膠原病」。その二種が「関節リウマチ」だ。原因は未解明だが新薬や外科手術の進歩で治療は格段に向上している。6月はリウマチ月間。産業医科大学の田中良哉氏と九州大学の中島康晴氏に近年の関節リウマチ治療についてお聞きした。



高齢での発症が増加 多様な関節痛との鑑別が重要

田中 関節リウマチは関節に痛みや腫れが生じ、進行すると関節変形や機能障害をきた



産業医科大学医学部 第1内科講座 教授 田中 良哉氏

します。原因は不明ですが遺伝的要因や喫煙、歯周病などの環境要因が考えられます。男性より女性に多く、好発年齢は40〜60代ですが最近では高齢での発症が増えています。中島 症状は関節症状と関節以外の症状があります。関節痛や腫れはまず、手足の指や手首に現れる例が多いですが肘や肩、膝や足首等にも現れます。起床後しばらく手指がこわばるとか、複数の関節で左右対称に症状が



九州大学大学院 医学研究院 整形外科 教授 中島 康晴氏

現れることが多いです。全身症状は倦怠感や微熱、眼や口の乾燥等で、肺や神経など臓器障害を合併する例もあります。

※寛解(かんげい)……完治ではないが、痛みや腫れなどの症状がなく検査数値も異常がなく、治療で疾患をコントロールできている状態。 (参考資料)日本リウマチ学会HP/日本リウマチ財団HP/日本リウマチ・ネット

田中 検査はリウマトイド因子(RF)や抗CCP抗体、CRP検査(炎症反応)や赤沈(ESR)、軟骨破壊と相関するMMP-3などの血液検査と、関節のX線や超音波、MRIなどの画像検査を行います。RFや抗CCP抗体が陰性でも関節リウマチの方や、その逆もあります。中島 関節痛は多様な原因で生じます。精密検査だけでなく痛みや腫れの部位や数、症状の持続期間、経過等から総合的に診断する必要があります。

選択肢が増えた薬物療法 治療目標は「寛解」

田中 治療目標は、関節などの炎症を抑えて炎症部位を保護し寛解を目指すことです。できるだけ発症早期から抗リウマチ薬を開始します。抗リウマチ薬の中心はメトトレキサート(MTX)で、効果発現には数週間を要するので副作用に注意しながら続けます。MTXだけでなく効果が不十分な場合は、経口薬の分子標的型合成抗リウマチ薬(JAK阻害薬)や、点滴や皮下注射薬の生物学的抗リウマチ薬(生物学的製剤)など高い治療効果が期待できる比較的新しい薬を組み合わせます。MTXにはほとんど消化器症状がない注射製剤も出ており、薬の選択肢は格段に増えています。

これらで寛解導入できれば、段階的な減薬や休薬などを試み、最終的には薬剤を使わずに済む寛解を目指します。中島 薬物療法の進歩で手術が必要になる方は減っています。しかし関節変形や破壊が進み日常生活動作が障害される、膝や股関節など大きな関節で病変が進行する、関節が脱臼し強く変形する、関節が固まる、関節が緩んで変形する、さらに薬効が不十分とか安

定した状態に見えても関節破壊が進行する……このような場合は手術を検討します。手術は人工関節置換術、関節固定術、関節形成術で、人工関節は膝や股関節だけでなく指や肘、肩もあります。膝や股関節の人工関節は10年以上の安定した成績が期待できるようになりました。重要なのは手術の時機で、筋力が保たれた段階で行うのが良いとされています。手術で良好なQOL(生活の質)を得るためにも、手遅れになる前に主治医とよく相談ください。

安定時は適切な運動で運動器の健康を維持 気になる症状があれば相談を

中島 症状が強い時は安静が必要ですが、落ち着いたら体調や関節の状態に合わせて専門医の指導の下、無理なく動かせる範囲で適切な運動を行い、筋力や関節の動作を維持することが大切です。またリウマチ患者さんを含め、加齢により骨粗鬆症や転倒骨折、変形性膝・股関節症などが増えています。人生100年時代、健康寿命延伸のためにも各人に適した運動を習慣化し、QOL維持に向けて運動器の健康に努めてください。田中 関節リウマチは自覚症状に関わらず定期通院が重要です。そして喫煙など明らかにリスクを避け、食事や運動、ストレス軽減や休養など体調維持のための日常生活の見直しも大切です。

関節リウマチは肺や心臓、消化器など内臓に炎症が現れる方もいて、それが続くとうるような疾患のリスクが高まります。手足の関節痛やこわばりなど初期症状はもちろん、関節症状に加えて、原因不明の眼や口の乾燥、発熱や空咳、運動時の息切れ等に気付いたら早めに受診してください。

KOGA 古賀病院グループ 新古賀病院 0942(38)2222 古賀病院21 0942(38)3333

総合病院 山口赤十字病院 院長 末兼 浩史 753-8519 山口市八幡馬場53-1 TEL.083-923-0111

医療法人 相生会 福岡みらい病院 院長 益田 宗孝 福岡市東区香椎原薬3-5-1 TEL.092-662-3001

整形外科・リウマチ科 リハビリテーション科 Takeuchi 竹内 整形外科クリニック 院長 竹内 一哉 北九州市門司区大里新町2-10 TEL.093(382)1511

整形外科 松原 弘和 まつばら整形外科 院長 松原 弘和 宗像市宮田2丁目13-5 0940(39)7811

整形外科・リウマチ科・リハビリテーション科 喜多整形外科医院 院長 喜多 正孝 名譽院長 喜多 正鎮 下関市豊前田町2-1-8 083(222)1738

医療法人 八木厚生会 八木病院 リウマチセンター長 原田 洋 福岡市東区馬出2丁目21-25 092(651)0022

地方独立行政法人 下関市立市民病院 SHIMONOSEKI CITY HOSPITAL 山口県下関市向洋町一丁目13番1号 083-231-4111(代表)

医療法人 豊栄会 細江クリニック 院長 橋本 修 副院長 湯之上 直樹 下関市細江町3-2-16 083(232)1374

救急告示病院/感染症指定医療機関 田川市立病院 編纂事業責任者 鴻江 俊治 病院長 松隈 哲人 福岡県田川市大字藩1700番地2 0947(44)2100

社会福祉法人 済生会支部 山口県済生会 下関総合病院 院長 森 健治 山口県下関市安岡町8丁目5-1 083(262)2300

六本松リウマチ膠原病クリニック 院長 押領 司 福岡市中央区舞鶴2丁目24-28 092-707-0915

整形外科・リウマチ科 リハビリテーション科 亀山整形外科医院 院長 亀山 博生 古賀市天神1-25-6 092-944-2112

医療法人 柏愛会 林整形外科医院 院長 林 廣青 副院長 山岡 和弘 福岡市博多区東月隈4-1-20 092(503)2828

内科・リウマチ科 難病科・リウマチ科 医療法人 相生会 ピーエスクリニック 院長 都留 智巳 福岡市博多区店原町6-18 092(283)7777

整形外科・リウマチ科・リハビリテーション科 医療法人 石西整形外科医院 院長 石西 貴 福岡市早良区田村5-2-1 092(863)2122

医療法人 近間整形外科クリニック 院長 近間 知尚 福岡市博多区藤崎町1-1-17 092-271-7755

独立行政法人 労働者健康安全機構 山口労災病院 院長 加藤 智栄 山口県山陽小野田市 0836(83)2881

膠原病・リウマチ診療 こくらリウマチ科・内科クリニック 院長 名和田 雅夫 副院長 染谷 一貴 北九州市小倉北区中井5丁目18-14 093-967-9686

独立行政法人 地域医療機能推進機構 (JCHO:ジェイコー) 福岡ゆたか中央病院 院長 松本 高宏 福岡県直方市感田523-5 0949(26)2311

24時間救急指定病院 医療法人 庄正会 蜂須賀病院 院長 寺戸 一成 福岡県宗像市野坂2650 0940-36-3636

医療法人 ケンサン会 片井整形外科内科病院 理事長 中根 英敏 糟屋郡粕屋町大隈132-1 092-938-4860

時任整形外科リウマチ科 院長 時任 毅 福岡市早良区南之町5-6 083(246)0575

社会医療法人 陽明会 おぼせ 小波瀬病院 院長 高橋 治城 福岡県京都郡苅田町大字新津 1598 番地 0930(24)5211

医療法人 和田整形外科 理事長 和田 研 春日市泉2-14 092(591)0511

内科・循環器内科・消化器内科・放射線科・リハビリテーション科 医療法人 健美会 佐々木病院 理事長・院長 峯 信一郎 北九州市八幡西区吉祥寺町9番36号 093(617)0770

笑顔につながる 明日を、共に。 アヅィ合同会社

医療法人 眞備会 小倉第一病院 院長 齋藤 和義 医師 勝又 野歩 小倉北区下津1丁目12-14 093(582)7730

特定医療法人 東筑病院 理事長・院長 早川 知宏 副理事長 安部 美穂子 北九州市八幡西区八枝1-7-20 093(603)0111

和田整形外科 生物学的製剤による治療も行っております

医療法人 眞備会 小倉第一病院

特定医療法人 東筑病院

Arizono Bespoke 北九州市八幡西区東田1丁目7番5号 093(661)1010

笑顔につながる 明日を、共に。 アヅィ合同会社

医療法人 医和基会 戸畑総合病院 院長 齋藤 和義 医師 勝又 野歩 北九州市戸畑区福柳1丁目3-33 093(871)2760